

様式第2（第5条関係）

会議録

- 1 附属機関の名称
犬山市総合計画審議会
- 2 開催日時
令和6年10月21日（月） 午後7時00分から午後8時30分まで
- 3 開催場所
犬山市役所 2階 205会議室
- 4 出席した者の氏名（順不同）
 - (1) 委員 増田 修治、鈴木 伸太郎、宮地 勝則、紀藤 秀夫、
玉置 久美子、鈴木 誠、水内 智英、鈴木 温、関谷 みのぶ、
松浦 恵子、酒向 和美、中山 有香、佐曾利 吏佐、藤本 雅己
 - (2) 執行機関 井出経営部長、古田企画広報課長、若山企画広報課主査補、
吉田企画広報課主事、羽賀企画広報課主事補
- 5 議題
 - ・第1回会議での意見等への対応【報告】
 - ・市民アンケート調査結果（概報）【報告】
 - ・『(仮) いいね！いぬやま総合戦略 2025-2030』素案について
- 6 傍聴人の数
0人

7 内容

(1) 開会

| | |
|---------|---|
| 事務局（古田） | <p>ただいまより令和6年度第2回犬山市総合計画審議会を始めさせていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきましてお疲れのところありがとうございます。本日進行を務めさせていただきます犬山市企画広報課 古田と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、はじめに鈴木会長の方からごあいさつをお願いいたします。</p> |
|---------|---|

(2) あいさつ

| | |
|---------|--|
| 鈴木会長 | <p>本日鈴木温先生が、オンラインで参加してみえるので発言の時に必ずマイクを使わなければいけないということを最初にご案内して、挨拶をさせていただこうと思います。</p> <p>今日は2回目の犬山市総合計画審議会になります。前回の反省として、グループに分かれての意見交換が少し足りなかったように思いました。また後で触れていただけたらと思いますが、今日も2つのグループに分かれてディスカッションする時間を取りたいと思います。限りがありますけれども、皆様もそこで思うところをご発言頂ければと思います。犬山市は総合計画や各種計画を作るときに、おそらく地元に住んでいるとなかなかわかりづらい点かもしれませんが、相対的に見ると非常に市民の意見というものを多角的に拾い出す努力をしています。また途中でも寄せられた意見をどう反映すべきか、或いは難しいのか、そこはよく考えて努力をしているように私は見えます。今日はまだ、あくまでも速報値でありますけれども、市民のアンケートを次回までには正確に集めて、そして皆様のご要望を踏まえたクロス集計分析などもしながら、この計画策定に役立つ情報を作り上げるということも考えてます。そういう途中段階の今日は第2回目でありますけれども、積極的に意見交換をしていただけるようによろしく願いしたいと思います。それではあいさつは以上とします。</p> |
| 事務局（古田） | <p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議ですけれども、送付いたしました次第に沿って説明させていただきたいと思います。1時間半程度行い、8時30分を目途に終了させていただく予定としておりますので、よろしく願いいたします。本日は、原委員から欠席のご連絡をいただいております。委員総数15名に対しまして14名となっておりますけれども、規定総数に達しておりますので、本日の会議の成立のご報告をさせていただきます。また本会議ですけれども、犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドラインに基づきまして、本会議並びに会議録は市のホームページで公開をさせていただきますので、会議録作成のため音声の録音をさせていただきます。その点もご理解の上よろしく願いいたします。なお、会議録につきましては後程会長よりご指名いただきました委員の方に署名をいただくことを予定しております。こちらの点につきましてもあわせてお願いしたいと思います。</p> |

(3) 資料の確認

| | |
|---------|--|
| 事務局（古田） | <p>続きまして資料の確認をさせていただきます。資料について順次ご確認をお願いいたします。この度は、事前の資料の送付が直前になってしまいまして誠に申し訳ございませんでした。本来であれば、1週間程度は確保してお送りすべきところ</p> |
|---------|--|

| | |
|--|---|
| | <p>でしたけれども、今回につきましては3日ということで、大変皆様にはご迷惑おかけしました。次回以降、きちんと早めに送付するようにさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは順に確認をさせていただきます。まず次第になります。次第に続きまして、委員名簿になります。続きまして資料1、次期犬山市総合戦略策定に向けた市民アンケート調査実施方法（概報）。資料2、次期犬山市総合戦略策定に向けた市民アンケート調査表。資料3、(仮) いいね！いぬやま総合戦略 2025-2030 素案を事前に送付させていただきました。本日机の上にご用意させていただきましたのが、同じく資料3になりますけれども、(仮) いいね！いぬやま総合戦略 2025-2030 素案の、10月21日時点改定箇所明示バージョンということで右の上の方に資料番号書かせていただいております。続きまして資料4、総合戦略改訂（案）。続きまして参考資料1、A4の横の、審議会での意見とその対応。さらに犬山市総合計画審議会、グループワーク委員割振名簿を配付させていただきますいております。</p> <p>資料等、不足ございましたら挙手をお願いしたいと思いますのですが、よろしいでしょうか。</p> |
|--|---|

(4) 議事

| | |
|--------------|---|
| 事務局（古田） | <p>ありがとうございます。そうしましたら議事に移らせていただきます。ここからの進行は鈴木会長にお願いをいたします。よろしくお願いいたします。</p> |
| 鈴木会長 | <p>はい。早速、議事の進行に入りたいと思います。それではまず議事に入る前に申し上げておかなければいけないことがありまして、犬山市附属機関等の設置及び運営に関するガイドライン第8条の規定というものがありまして、原則公開という形で審議をするということです。本日は、傍聴希望者は特にないですね。審議会の決定によってですね、今回公開しますけれど、傍聴者はお見えになりません。</p> <p>次に先ほどお話がありました会議録の署名人の選出ということですが、前回は鈴木委員と増田委員にお願いしましたので、今回、宮地委員と紀藤委員にお願いできたらと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> |
| 宮地委員 紀藤委員 | <p>はい。</p> |
| 鈴木会長 | <p>ではよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは次第に基づきまして、議事の方に入ってまいりたいと思います。本日の議事は、この後、先ほど言いましたように2つのグループに分けて、そこで審議をいただくことをしたいと思っております。まず始めに、事務局の資料の説明を求めて、この場で一度内容について確認をする意味で、もし質問等あれば出していただくというような形でいきたいと思っております。では1つ目の議題第1回会議での意見とその対応について、事務局から説明をお願いいたします。</p> |
| 事務局（古田） | <p>はい。そうしましたら議事の1つ目の第1回会議での意見とその対応についてということでご説明を申し上げます。本日お配りをいたしました、参考資料1、ご覧いただけますでしょうか。こちらの資料につきましては、前回の会議の際に全体会議並びに、2つのグループに分かれていただいたグループワークの中で、委員の皆様方からご発言いただいた意見に対する対応ということで、左側に意見の要旨、右側には対応の案ということで示させていただいております。中にはこの会議の場、もしくはグループワークの場でお答えをさせていただいた内容もごございますが、会議の場では、ご意見をお伺いするにとどめて、そのうちこちらの方で意見、対応を</p> |

| | |
|---------|---|
| | 記したのもございます。ですので、会長にご提案です。この場で5分ほどお時間を取らせていただいて、委員の皆様にご自身の発言内容等を中心に内容を確認いただいて質疑の時間とさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。 |
| 鈴木会長 | はい。 |
| 事務局（古田） | ありがとうございます。そうしましたらただいま7時10分ですので、5分ほど、15分まで資料をご確認いただいて、また質疑等をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。 |
| （資料確認） | |
| 事務局（古田） | では会長、皆様のご意見をお求めいただければと思います。 |
| 鈴木会長 | それでは5分たちましたので、皆様の方からどうでしょうか。この第1回の会議での意見内容の確認と、市側の対応について、ここで確認しておきたいことはありますでしょうか。 どうぞ。 |
| 鈴木(伸)委員 | すみません。今見させていただいたんですが、この1番の鈴木、私だと思のですが、効果検証の資料3は前回の資料3なのか、ここにあるんですか。 |
| 事務局（古田） | はい、お答えをさせていただきます。このときのご質問は資料3デジタル田園都市国家構想交付金の効果検証の中に、委員ご質問のシルバートマトの事業が入っていなかったもので、なぜ検証しないんですかというご質問でございました。それに関しまして、前回の会議で提示させていただいた効果検証については、計画期間が現在も続いているものについて効果検証を行っていますので、シルバートマトの事業についてはデジタル田園都市国家構想交付金の計画期間が終了しているのが対象外となっています、とご説明を申し上げました。後々そうは言ってもというご指摘ご意見いただきましたけれど、その部分をここにまとめさせていただいています。 |
| 鈴木(伸)委員 | これは前回のやつを受けてじゃなくて、前回のまとめということですね。 |
| 事務局（古田） | はい、おっしゃる通りです。前回出た意見に対してその場で答えたもの、もしくは、その場では聞いただけで終わってるものに対してお答えをお示ししたという資料です。 |
| 鈴木(伸)委員 | わかりました。中には追加で加わってるということもあるということですね。 |
| 事務局（古田） | はい、おっしゃる通りです。 |
| 鈴木(伸)委員 | わかりました。 |
| 鈴木会長 | 他いかがですか。 松浦委員どうぞ。 |
| 松浦委員 | 7ページの39番。おそらくこの会議ではなくて、そのあとにご意見聞きますよということ質問させていただいたことなんですけれども。今、数字的なことは難しいと思うんですけれども。産後ケア事業と記載されていますが、具体的な内容というのは多分国とか行政の方が具体的に出している内容で、私は犬山市としてどんなことをやっているか、あとどれぐらいの利用があったかということをお聞きしたかったんですけれども。おそらくここに回答いただいているものは一般的なものだと思うのですが、今このあたりは数字等分らないですよ、どれぐらい使われているとか。 |
| 事務局（古田） | ありがとうございます。ここに書かせていただいている事業内容は、犬山市で実際に実施している内容です。宿泊型、通所型、訪問型という3パターン。これも段階的に始めているものです。申し訳ありません、委員ご指摘の実績の数字を持ち合わせておりませんので、またどこかの機会に。事業実績ですよ。 |

| | |
|---------|---|
| 松浦委員 | そうです。どのくらい犬山市の方々が産後ケア事業の中で使われることがあるのかという実態のところを知りたいなと思ったものですから。 |
| 事務局（古田） | 別の所で実績の報告を受けておりますので、また報告をさせていただきたいと思えます。 |
| 松浦委員 | はい、ありがとうございます。 |
| 鈴木会長 | それでは皆様、どうでしょうか。先に進んでよろしいでしょうか。 それでは議事の（２）市民アンケート調査結果。あくまで速報、まだ途中のものでありますけれども、事務局の方から説明をお願いします。 |
| 事務局（古田） | お願いいたします。資料１、資料２をご覧くださいと思います。資料１では概報ということで、市民アンケート調査の実施報告をさせていただいております。調査期間は、９月２５日から１０月９日の２週間強の日付で、郵送をさせていただきました。１８歳以上の市民の方２,０００名を無作為抽出いたしました。資料２にございます調査票をお送りさせていただきました。この調査票を整えるにあたりまして、委員の皆様方からご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。 通算居住年数を把握してはどうか、ですとか、公共施設のあり方なんかを問う質問を設けた際に、こちらから提示した施設以外でもそういう課題を持ってるところもあるかもしれないので、他の課も必要性があるかどうか市役所全庁的に確認をしたらどうだというようなご意見を賜りまして、そういった内容を反映させていただいて、この調査票を作らせていただきました。２０００通お送りいたしまして、回収数は１０月１１日現在で７５８通になっております。１０月１１日といいますと、期限としていました１０月９日を超えておりますけれども、ご回答いただいたものについては回収数としてカウントをして、集計をして参る予定をしております。実際に今週末の段階でもWEB回答が来ておまして、どこの段階で終わるのかまだ見えておりませんが、回答いただける範囲ではすべて集計をして反映をして参りたいというように考えております。構成といたしましては、この資料をご覧くださいますように、大きくは５つの部分に分けて、計４０問程度の設問で実施をさせていただいております。めくっていただきますとカラー刷りのＡ４横の統計データになっております。今回につきましては、設問のうち「犬山市での暮らしとまちの印象について」というテーマの１３問について、概報として報告をさせていただきました。この１３問は、犬山市総合計画や現在の第２期総合戦略の中で、目標指標として定めている項目をピックアップして、設問とさせていただいております。細かい分析はまだできてはいないんですけれども、左上の表ですね、年齢別で集計をさせていただきましたが、有効回答が７３４ある中で、７０歳以上の方が２７４通ということで、全体の３割ぐらいを占めております。めくっていただきますとこの傾向はずっと続くものでして、当然ながら、この７０歳以上の方の回答がすべての質問に対してある程度一定の割合を占めているというのが１つ、このアンケート調査のなかで分析できるかなと思っております。また、グラフを見ていただきますと、大体青色ですとか右側にある部分は肯定的な回答になっているんですけれども、問６インフラの整備ですとか、問７公共交通の便利さ、問８市内の買い物の便利さ、問１２スポーツをする環境が整ったまち、この辺りは「思わない」、「やや思わない」という回答数が多かった設問項目かなというところが、現在の分析の結果になっております。この調査結果ですけれども、まだ回答が来ている状況ということもございまして、他の調査項目の集計がまだ終わっておりませんので、この点につきましては集計が整い次第、次回会議の前に皆様方にこのアンケート集計結果だけ、別途ご報告資料を送付させていただきます。 |

| | |
|---------|---|
| | たいというふうに考えております。説明は以上です。 |
| 鈴木会長 | ありがとうございました。今のこのアンケートについて何か確認したいことがございますでしょうか。 |
| 宮地委員 | はい。 |
| 鈴木会長 | お願いします。 |
| 宮地委員 | <p>最終ではないということで、次回までにご用意されるかもしれませんが念のために確認を、ということで。まず1つはですね、傾向として前回と比べて、犬山市に住み続けたいとか満足している人とか、いろんな設問で前回と比較して増えたほうが良いという設問があるわけで。それがどういう傾向あるかご報告いただきたい。</p> <p>もう1つは、さっきおっしゃったように3割が70歳以上の原因ですけども、無作為抽出で2000人に送ったときに、それぞれの年代別の数が事前にお分かりだろうと思うので、その中で比較的若い人達に回答をあまりしてもらえなかった、1つそういう傾向がありますよね。もう1つはたまたまではないんですけども、要するに住民の年齢構成のせいで、高齢者にそういうお願いが届く割合が高いとか、何かそういう理由があると思うんですけども。いかにも高齢者に偏り過ぎの回答で、それを全体に満足していますか、していませんかという、一般的に思われやすいような仕様になってしまっていて。ですから、高齢者がこう思ってるという資料な気がするので、その辺がどうかと思ってるので、それがもし次回までに、できれば検討していただきたいと思います。</p> |
| 事務局（古田） | <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>1点目の令和3年度の前回調査、そことの比較は必要なと思っております。策定当時、総合戦略といいますと、令和2年に策定、元年に調査をし、そういう経年の変化という分析の資料はお示しをさせていただきます。</p> <p>2点目の70歳以上の回答率が高かったという点について、そもそもの配布の数がどうだったのかっていうところもやはり比較が必要かと。当然、高齢者の方の回答率が高いのは間違いないと思うんですけども、どの程度回答率に差があったのかというようなところも分かるような資料の準備をさせていただきたいと思います。</p> |
| 鈴木会長 | <p>他いかがでしょうか。</p> <p>確かにこういうアンケートでやると、どうしてもベテランの方たちの意見が多く占めるということは往々にしてあるんですが、例えば39歳までのところでどういう意見があるのかとか、その辺のクロス集計は、また皆様のご要望を出していただければ、それを踏まえて検討していただくという分析もしていただけるということなので、このアンケートも総数としては総計があるけれどもその中から、何を見るべきだとかについてはぜひ見解というか、グループ討論の中で意見を出していただければというふうに思います。ありがとうございました。</p> <p>それではですね、次にいってよろしいでしょうか。</p> <p>(3)『(仮) いいね！いぬやま総合戦略2025-2030』素案についてになります。それではこちらについて、まず事務局から説明をお願いします。</p> |
| 事務局（古田） | <p>はい、そうしましたら議事の3点目になります。『(仮) いいね！いぬやま総合戦略2025-2030』素案についてという議事につきまして資料3と資料4をもとに説明させていただきます。</p> <p>資料3につきましては本日お配りをさせていただいた資料をお手元にご用意いただきたいと思います。資料3につきましてはお手元に配布しております第2期いいね！いぬやま総合戦略と比較をして、改定として提案をさせていただいてる箇所に</p> |

ついて、赤い下線を引いてございます。この部分が現行の戦略から変更になっているというところで、ご覧をいただければと思います。開いていただきまして、まず目次がございまして、今日は、このタイトルの見出しの横に星マークがついている部分を素案としてご提案させていただいております。順番にご説明を申し上げたいと思います。まず右側の序章、1ページ2ページですけれども、ここは資料4、現行の人口ビジョンを活用しますというような対応になっています。現行の人口ビジョンと申し上げますのは、第6次犬山市総合計画、令和5年3月に策定をしましたが、その際に人口ビジョンを策定しております。人口ビジョンは将来目標人口を定めるものなんですけれども、2060年までに6万人の人口にしますという人口ビジョンを掲げております。その目標、ビジョンを今回の総合戦略は前提において、考え方、事業をまとめていくということにしております。そういった内容がこの下線部の方で表現をさせていただいております。また、2ページ目の上には、総合戦略の計画期間は、令和7年度から令和12年度としております。現行の計画は、令和2年度から令和6年の5年間になっておりましたが、今回は6年間の総合戦略を予定しております。現行は総合計画と総合戦略の年度がずれておりますけれども、今申し上げましたように、人口ビジョンですとか、そもそも施策の方向性は、総合計画とシンクロする、同じ方向を向いて策定に取り組む部分も多いことから、同じタイミングで計画を立てていくのもいいのではないかとこのように考えております。決定事項ではございませんけれども、そういう考え方のもと、総合計画の終了年度、2030年度と合わせる形をとっておりますので、今回の総合戦略は6年間とさせていただいております。めくっていただきまして3ページ、4ページ。こちらの内容は今回提案をさせていただいております。先ほど申し上げました市民アンケート調査の結果ですとか、公表データをもとに、犬山市の特徴と課題の整理をさせていただきたいと思っております。このページにつきましては、アンケート調査の集計をもとに、ということになりますので、次回の会議以降でお示しをさせていただく予定をしております。続きまして、5ページ、6ページをご覧ください。5ページの人口ビジョン、6万人ですとか、この下の数字は、前回の現行の総合戦略から数字を最新のものにアップデートして、改正を加えております。右側の6ページご覧いただけますでしょうか。ここは人口の減少を補うことが必要ではないかというところがございますけれども、この部分が現行の計画から変わっております。すみません、肝心の下線が抜けておりますけれども、現行の計画では、犬山市を訪れる人を増やしますという、交流人口、観光をはじめ、通勤通学、そういった関係人口を増やすことが、人口減少を補うものというふうに示しておりましたが、今回新たに策定する戦略では、外から来る方だけではなく、まず犬山市に愛着を持っていただける方、それは今住んでみえる方も含めて、愛着を持っていただける方を増やしていくということを、まちづくりを進める大前提として、変更しております。従いまして、その下の「実現のために」というところもありますけれども、こういったところに、定住・移住の促進というような項目を加えております。続きまして7ページ、8ページをご覧ください。この部分につきましては、現行の計画ですとか、現在の市政の施策の方針、そういったものの考え方を反映させていただいております。7ページの戦略の策定の考え方というところをご覧くださいと、2つ目の「地域資源をフル活用」というところも、まだまだ犬山市には可能性と潜在力があるということを改めて今、市政として考えておりますので、こういったキーワードを入れております。また、「チャレンジとこだわり」ということで、新しい挑戦もするけれども、今ある

| | |
|------|--|
| | <p>ものを大切にしていかなければいけないこだわりも大事だろうということ 키워ワードとして入れさせていただいております。また右側の8ページですが、この戦略の方向性、「豊かさを実感できるまち」というところについては変更を加えておりません。この点につきましては、現在の第6次犬山市総合計画のまちづくりの将来像という大きな犬山市政のまちづくりを考えていく上での将来像を掲げておりますけれども、そこの言葉が、「水と緑と伝統 みんながつながり みんなうるおう 豊かさ実感都市 犬山」というまちづくりの将来像を掲げております、現在の総合戦略の「豊かさを実感できるまち」と、方向性は同じであるということからも、この部分については変更を加えておりません。今の総合計画のまちづくり、まちの将来像につきましては、お手元の総合戦略の35ページ、詳しくこのテーマの考え方を書いてございますけれども、この「水と緑と伝統 みんなつながり みんなうるおう 豊かさ実感都市 犬山」というその言葉の意味、意義がここに詳しく書いてございますので、こういったところも参考に総合戦略は作ってまいりたいというふうに考えております。続きまして、9ページご覧ください。こちらは、第2期総合戦略の達成状況というページ項目になっております。第2期総合戦略で設定をいたしましたKPIの目標数値の達成状況を表すページとなっておりますけれども、データは新しくなっております。各項目とも赤い線が引いてあります。達成状況の部分で、なかなか達成しているものが少ないという状況がございますので、このあたりも今後、具体施策を考えると参考にしていく数値かなというふうに考えております。最後になりますけれども、資料3の裏のページになります。ここが、最終的に重点事業、今後の具体的な事業だというものを考える上での締めくくりとなる部分でございますけれども、この総合戦略の推進にあたってということで、目指す姿、「暮らしたいまち」、「活躍したいまち」、「訪れたいまち」、を実現するために6つの視点を掲げています。この中で、6つあるうちの2つ。今回、現行の総合戦略から変更しております。「自治体間の連携」と「マッチングの促進」という項目がございました。こちらを「デジタルの活用」、「多様な主体との連携協働」というキーワードに変えさせていただいております。これは、犬山市が方針として掲げているところを強く打ち出していきたいというような思いから、この2つを新たに位置付けたというような背景がございます。またそれぞれの文章につきましても、現行の状況を犬山市の考え方が表現できるように、一部内容を修正しているところでございます。ポイントを絞っての説明になりましたけれども、3つ目の議事『(仮) いいね! いぬやま総合戦略 2025-2030』素案についての説明にかえさせていただきます。以上です。</p> |
| 鈴木会長 | <p>ありがとうございました。 それでは素案について事務局の方から説明いただきましたが、内容についての議論はまた後ですとして、まず説明のあった内容について、確認したい件ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。</p> |

(5) グループワーク

| | |
|------|---|
| 鈴木会長 | <p>それでは、一通り今日の資料を説明いただきましたので、いよいよ本番の方に移っていききたいと思います。これから2つのグループに分かれていただきまして、グループワークを行っていただくこととなります。グループワークについては、事務局から資料配っていただいていますね。Aグループ、Bグループというふうに分けてありまして、Aグループの方は、ちょうど正面の204会議室を使うと、Bグループの方は205会議室を使うということで進めます。グループワークは、なるべくし</p> |
|------|---|

| | |
|--|--|
| | <p>っかりと皆様の意見をお聞きしたいということもありまして、8時20分までを目途として進めていきますので、本日は35分ぐらい時間を持てるというふうに思います。8時20分を目標にして、これからまた議論をいただきまして、この205会議室の方にまたお戻りいただくというような形になります。Bグループはこの部屋でやりますので、後で座席の配置と変えますので、ご協力いただきたいと思います。204の方に移っていただくAグループの方はですね、関谷さんに進行をお願いしたいと思います。そしてこちらのグループは、水内先生をお願いをしたいと思います。それで、また8時20分にここに集まっていただきまして、そこから5分程度で、それぞれのグループでのご意見を紹介していただきたいと思います。ただ、時間が限られておりますので、全部を紹介するわけにはいかないですけれども、発言された内容は議事録として取っておりますので、それを活かすように、必ず行っておりますので、ぜひご審議いただければというふうに思います。そんな方向で進めていくということですのでよろしいでしょうか。それでは、積極的なご意見をよろしくお聞きしたいと思います。</p> |
|--|--|

(6) Aグループ

| | |
|---------|--|
| 関谷委員 | よろしくお聞きします。 |
| 全員 | よろしくお聞きします。 |
| 関谷委員 | 酒向委員初めましてですよね、よろしくお聞きします。 |
| 酒向委員 | よろしくお聞きします。 |
| 関谷委員 | <p>時間があるようでありありませんので、早速ですけれどもご意見を賜りたいと思っております。</p> <p>先ほどの全体会のところでは、総合戦略の中もそうですけれども、もう1つ、アンケートの概報しか出てないですけど、何かありましたらというようなこともお話があったので、先にこちらから少しお伺いしたいなと思います。アンケートで宮地委員から前回との比較、そういうものが欲しいという話もありましたけど、それ以外に何かグループとしてこの要望出しておきたいというようなことはありますか。</p> |
| 宮地委員 | アンケートの中身について少し言及したいことがあって、いいですか。 |
| 事務局(古田) | はい。 |
| 宮地委員 | <p>アンケートの問5ですけど、「ボランティア活動を行っていますか」という数字。私はいかにも少ないなと思っていて、これが他都市の自治体と比べて少ないのかそれとも普通なのか、そういったことがもし分かれば知りたいなということ。</p> <p>もう1つは、そういうボランティア活動を啓蒙するとか、要するに参加していただくようなそういう取組みも市、行政が何かされているのか。その辺を知りたいなと思っておりますが、いかがでしょう。</p> |
| 事務局(古田) | 他市との事例は可能かと思いますが、同じ項目で調査しているかどうかを、調査項目を近隣の自治体で調べてみて、お示しをするというのは可能かなと思います。 |
| 宮地委員 | 要は犬山市が平均的なぐらいか、それともいかにも低そうなのか。その辺のことが知りたいだけですから、比較は必要ありません。 |
| 事務局(古田) | 傾向として、ということですね。NPOやボランティア活動に参加してもらうために取組みをしていますか、というご指摘については当然担当部署といますか、全庁的に講座ですとか、そういったものは盛んに行っていますので、全庁的には行っています。募集については、市の広報の全戸配布が始まりまして、広報媒体ですとか場合によっては、もちろんホームページに載っていますし、公式のSNSを通 |

| | |
|---------|--|
| | <p>じてご案内をしているので、情報をお届けしているということになります。NPOやボランティア活動というのは行政がやってもらうのではなくて、市民の皆様方が自発的に、主体的に活動されるというものですので、このあたりの側面的支援を行政はしていますが、直接的に何かしているのはすべての方々には細かくやれているかということそれはまた別になります。</p> |
| 宮地委員 | <p>もちろん、分かっています、要は仲介みたいな形で何かそういうことをされているのかなと思ったので、やはり行政的にそれは無理だと私もそう思いますので、PRコーナーを作ったりとか、広報にそういう案内をしたり、その程度しか手段はないですね。</p> |
| 事務局（古田） | <p>そこは佐曾利さんが。</p> |
| 佐曾利委員 | <p>今は個人個人で団体に入っていますが、そもそも市民活動って先に文字が出ているのが、ピンとこられたかなとすごく拝見して思いました。NPOというの分らないんじゃないかな。ボランティア活動と言った時に、例えば町内会とか暮らしの中で役回りで行っていることも、そのボランティアという表現はちょっとあれですけど、まちの何かの活動に参加していますか、という聞き方と少し距離があるなというのは思っていて、自分が何かまちの一員としてやっているかも、というのを回想できるような質問項目だったらもう少しリアルな数字になったかもしれないと思う。</p> |
| 宮地委員 | <p>多分町内会などそういうことがここに入り込んでくると、かえって本質が見えにくくなってしまふから外したほうがいいと思います。</p> |
| 事務局（古田） | <p>すみません、今回確かに2人の委員のご指摘はもっともだと思います。正直、NPO活動、市民活動、ボランティア活動で皆様が知っているか知らないかでいうと定義が違ふんで、認識が違ふ。ただ、今回のアンケート調査について、この文言でずっと調査をしてきている。その経年の変化を見たいということで置いています。ここで新たな定義を置いてしまうとずれてしまう。ただ、やはりそういったご意見があれば、こういった調査を定期的実施していますので、次回以降そういったところは修正をしていくべきかな、と改めて感じます。今回についてはそういった経年の変化を見たい、というところであえて説明を加えなかったというところになります。</p> |
| 佐曾利委員 | <p>子育て世帯からは、今言われたような町内会とかへの距離がずいぶんできて、関わる切り口とかが、もう生活の中から距離ができてきているみたいなことの実態も見えるような別項目があるといいなと思いました。</p> |
| 宮地委員 | <p>町内会は、積極的に喜んで参加している人はおそらく少ないと思う。私は1つだけ参加しているものがあって、一級河川の草刈りを年に5回くらいやっている。原市長にも毎回参加してもらっています。そういうものが多分、自主的にももちろん私は自主的に喜んで参加しているし、頼まれたものでも、義理でもない。それと町内会の役員は少し異質かなと思っていました。だから加えるのであればそれは違いがわかるような形でアンケートしないといけないと思う。</p> |
| 佐曾利委員 | <p>暮らしやすい、みたいなところの中に小さな組織は切っても切れないかなと思います。</p> |
| 関谷委員 | <p>確かに戦略の方で民間の力を活用とか、多様な主体との連携、人材の発掘、育成など事前の項目にこういう、市民の力というのは、いろんな形で必要になってくる部分だと思う。実際そういったところに反映できるようなアンケートの取り方が必要になってくるかもしれないと思う。またその疑問を深めながら次回につなげてい</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>ただきたいと思います。よろしくお願ひします。</p> <p>その他アンケートで議論をしておくべきことはありますでしょうか。</p> |
| 酒向委員 | <p>もう取り終わったことですが、18歳の回答がある問10とあって、これで何を反映してるんですかね。</p> |
| 関谷委員 | <p>そうですね、そこで1つ提案ですが、この表を出すときに右側に年齢別の年齢構成比率とあっていうものが出てくると、私たちも先ほどの全体会の説明で70歳以上が多いんですよって言われた、そこがどう年齢別で出てくると。問10とかどういふふうに判断していくか。年齢別の構成割合みたいなものも多少は必要だと思う。</p> |
| 酒向委員 | <p>回答しなきゃいけないという意識が多分ないので、難しいですけど。うちの子にこのアンケートではないですが、届いたアンケートがずっと放置されていた。もっと回答をしなければいけないという意識を持ってもらうようなものが必要だと思う。</p> |
| 関谷委員 | <p>まさに犬山の愛着みたいなものにつながってくるかもしれない。そのために還元したいとか意見を言うことが何かにつながるというのを実感できるといいですね。</p> |
| 宮地委員 | <p>1ついいですか。老人の方がアンケートを送った時に回答率が高いという事実があると思う。一方で、若い人ほど今後の犬山についても聞きたいというようなこともあり、そういう意味では若い人たちからの回答を増やすためには年齢別の配布する数に差をつける。老人が少なく、若い人は多くという差をつける。そうすると結果的にある程度、老人が無茶苦茶多くて若者が少ないという回収結果が縮まると思っています。そういうことは可能なのか。</p> |
| 事務局（古田） | <p>手段としては可能です。可能ですけども、アンケートの信憑性といいますか、全市民を対象としたアンケートの取り方としてそれが適正かという、変わってくるかなと思います。</p> |
| 宮地委員 | <p>まず1つ問題があるのは、おそらく無作為抽出2,000人といいながら、年齢では無作為ではない面があって、行政としてそれは本当の無作為とは言い切れないという問題が1つある。</p> |
| 事務局（古田） | <p>これは完全に無作為に関係なくというか、ある程度の年齢構成によって比率を捉えてやっています。</p> |
| 宮地委員 | <p>そうなんです。</p> |
| 事務局（古田） | <p>ただ、どこかの部分だけ意図的に手厚くしようというのはやっていません。</p> |
| 宮地委員 | <p>若い子達をふやすことは困難ではないね。</p> |
| 事務局（古田） | <p>困難ではないです。</p> |
| 宮地委員 | <p>過去の定点観測みたいなデータとの整合性が多少難しくなる。何が言いたいかというと、70歳過ぎの人たちの意見を聞くことがどれほど意味があるか、今後これから何十年犬山市で過ごして住んでもらう人たち、若い人たちの意見こそ、実はもっと大事だと思う。だから逆転せよ、という極端なことを申し上げるところではないですが、もう少し回答数が、上と下で縮まる。そういう形で持っていった方が、有用というか役に立つという気がします。</p> |
| 関谷委員 | <p>今回の結果を見て、いろいろと思うところがたくさん出てきますけれども、次回に向けてのこの結果の出し方については何かありますか。</p> |
| 増田委員 | <p>今回、無作為で2,000人ということで、うち758が返ってきて、アンケートに答えている人は、先ほど酒向さんの話じゃないですけどある程度前向きな人というか、興味のある人から返ってきている中、この犬山市の現状に満足に「いいえ」が</p> |

| | |
|------|--|
| | 41%というのはかなり危機的な状況だと思う。実質で言うと多分 50%超えているということでもあるかなと思うので、他のアンケートも含めてですけど、この安心安全を実感し、のアンケートだけ見ると4分の1に見えますが、実際は返ってきてない人たちまで返そうとしたら、絶対もっと高いと思う。多分その前向きではない人たちが答えるという率になってくると、愛着とかもそうですけど、実際の数字はもっと低いと認識した上で、まちづくりを考えていかなければならないなど。なので、前向きな人たちの意見というのはもちろん参考にはなりますが、その声大きい人よりも、声が小さい人が絶対的に多いと思います。それを反映するのはなかなか難しいですけど、あったらいいなと思いました。 |
| 宮地委員 | 回答してくれない人の声を聞くのは難しいよね。 |
| 増田委員 | でも実際の感情を聞くと、そうなると思う。 |
| 関谷委員 | だからこそ、「いいえ」とか否定的な意見のところの数が少ないから、1割に満たないからではなくて、1割もいると考えていくということが大事かもしれない。 藤本委員いいですか。 |
| 藤本委員 | はい。市民活動の話に戻ってしまうんですけど。自分がこの会議の各資料を見せていただいて、一番感じたことはこの市民活動の先ほどお話があったと思うんですけどNPOとボランティア団体、結構ざっくりな質問かなと思います。NPOとかボランティア団体でコミュニティーに所属をされている方って、そもそも何かを今に満足をされてない方が多いと思って、その活動をしていると感じる。自分も個人的にボランティアをやらせてもらっていて、今よりももっと改善したいからそういうボランティアする、NPOに入るってことが多いと思います。他の質問とか特に問10とか子育てがしやすいまちであったりとか、問9「住環境が整備されていると思いますか」、というところにも反映されていると思っていて、NPOとボランティアをしていない方が今回そのアンケートされたと感じていて、今の満足をしている方が多いという印象があるので、ただNPOとボランティアをされている方にもっと集計をすると「いいえ」の割合がもっと増えるかなと思っていて、子育てしやすいまちとか、住環境が整備されている部分が過半数と思います。ただ、ボランティアとかされている方はもっと、「いや、そんなことないよ」という方が多いのかなと自分が感じていています。なので、質問ではないですがボランティアとかNPOをされている方は、まず何かしらに不満がある方だと思いますが、もっとそれがきつとこの全体的に反映されているなど思ったので、先ほどもおっしゃってたんですけど、もっと「いいえ」の割合増えるがわけで、もっと多いのかなと感じました。以上です。 |
| 関谷委員 | ありがとうございます。これは問5と、その他の項目をクロスで出してもらえると、「いいえ」のところの割合に対しての比例が出るんじゃないのかなと思います。 |
| 藤本委員 | そうですね。 |
| 関谷委員 | 藤本委員の肌感覚的なものが、実際に数値として見えてくるかもしれない。 アンケートについて以上でよろしいですか。 |
| 全員 | はい。 |
| 関谷委員 | では続けて、残り20分ぐらいになりましたが、残りの時間は実際にこの戦略の、目標としたところ、方向性についてはもうすでに全体のところで話があって変わったところ変わってないところというようなところ、特に大きく変わったのが、外から来る人を呼び込むのではなくて、愛着を持っている人増やしていきたいということがすごく大きく変わった、というご説明があったかと思いますが、そのための |

| | |
|------|--|
| | <p>定住とか移住の促進をどうやってしていくか。その他、いろんな6つの視点で取り組んでいきますよということが示されたわけですが、そもそもこの6つの視点でいいかどうかだったり、それぞれの中に前回から変わったことだったり、視点は変わってないけれども中身が変わっていることとかいろいろありますけれども、何か自由にご発言いただければと思います。</p> |
| 宮地委員 | <p>3ページ、4ページは、修正前の現行の内容ということでしたが、実はこの中にいろいろと疑問とかもう少し話したいことがあって、ここは触れない方がいいですか。</p> |
| 関谷委員 | <p>ここは変わるかもしれない。まだ修正がこの後だと思うのですが。</p> |
| 宮地委員 | <p>細かい所ではなくて、抽象的なこと、方向性とかが抽象的なことが結構多く書いてあって、どこかで具体的に今後とか、何か設定をどうするかとか、これが最後の8ページに総合戦略のグループの取組みを設定します。具体的な取組みこそが1番大事で、例をあげると4ページの市内で買い物をする人の割合が少ないとあります。大規模商業施設が犬山市にはない。これは1つの大きな原因だと思います。扶桑のイオンとか大口町にもアピタがありますよね。ああいうものが犬山市にはない。私この間の都市計画審議会に出て、その会議で出た1つの話が、商業施設を誘致したというか、市街化調整区域の農地なんかでも、開発しやすいように駅から半径500mぐらいのエリアについては、優遇措置というか緩和しましょうって話があった。私はそれをやらないとこの課題は解決しない。それをやろうと思うと、例えば都市計画課単独ではできない。農地を担当する産業課でもできない。それを調整するために、どこかそうゆうところが、全市的に取り組まないといけない。これやろうと思えばできると思うんですよ。そういうところを、具体的にこれを本格的に進めるためには、そこまで大ナタを振りましょうということ、実現がある程度見えてこないとなかなか書きこみにくいんでしょうけど。でもさ、具体的なものが本当は欲しいなと思いつつと見てる。私は少し前からそのように思っています。何とかそういう大規模商業施設を犬山市に誘致してほしいということです。</p> |
| 関谷委員 | <p>ありがとうございます。おそらくこの住環境とか、市内での買い物が便利かどうかというところの、「思わない」というところがすごく大きいのではないかとこのところ。住み続けるためには買い物のところを少しアプローチしていく必要があるのではないかと。実際ここはどうなるか分からないですけども、アンケート結果からは見えてきますし、いろんな視点のところ、もしかしたら行政間で他課との連携があってくるといいのかもしれないです。</p> |
| 宮地委員 | <p>もう1つは同じことですが、4ページの右側の下から2つ目の「耕作者の高齢化や農地保全の対応が必要」、これも結局は具体的な対応ができないんですよ。私は農業委員会の会長やっています、農業委員会で毎回出てくることなんです。耕作放棄地が毎回増えている。これをどうするかということになると、やり手がいなくなって放置せざるをえない農家さんが実際にあり、その人たちが打つ手が無くて放棄地になってきて、草が生えて、何年か経つと木が生えてくる。それをある程度解消するためには、行政としてお願いするだけでは、なんともなりません。今回の総合戦略の中の文言としてはこれでいいと思うんですが、具体的な成果を上げるために、市として、商業施設の話もそうですが取り組んで欲しいなというのが私の願いです。</p> |
| 関谷委員 | <p>実際に課題として上がっていることをどう実行しているかっていうことを考えていくには、少し踏み込むことが必要になってくるかもしれないですね。 その他の視点で何か皆様の考えはありますか。</p> |

| | |
|---------|---|
| 佐曾利委員 | <p>目指す姿の「子育て支援と教育に力を入れている」と載っているところの6つの下とのつながりがピンとこない。またそういったところの具体的な内容がこの6つに絞っている中に出てきてもいいのでは。</p> <p>あと1番はじめの「民間の力を活用」って誰目線だろう。もちろん、市役所でこういうのを考えていくところですけど、私たちの民間の力を活用って何だろうと思う。私たちの力を発揮するだと、主体的だと思えるなというところで、活用する側、される側みたいな視点ができそうで違和感がある。先ほどの商工業・産業が栄えるっていうところの中でいうと、そこは創出するまちって書かれていたときに、「新しい時代の流れを力に」とはあるんですけども、具体的に何を新しいことをスタートできるまちとかだとイメージが湧きやすい。概念であったとしても、ここに期待が寄せられるみたいな、そういう言葉の折り込みが必要。皆そういうのが子育てにも視点を取り入れていますとか教育にも繋がっていきますとか、リンクしていくのかなと思いました。</p> |
| 関谷委員 | ありがとうございます。文言って大事ですよ。 |
| 増田委員 | 11ページの「などなど」がよく意味がわからない。 |
| 関谷委員 | もうすでに書かれているやつですよ。 |
| 事務局（古田） | はい。これはずっとあります。今でもあります。 |
| 佐曾利委員 | 「民間の力を」と「多様な主体との連携協働」は似ているような感じですよ。これを見て、犬山で暮らし続けるイメージが湧くかというところ。さっきあったように具体性があった方がというのはもちろんあります。 |
| 関谷委員 | 目指す姿に対しての方法としてのイメージがついてこないというところですね。確かに、子育て支援と教育が大きいと思う。ここが大きくなり、具体的に見えてくると定住する人が増えると思われませんか。 |
| 佐曾利委員 | 例えば小学1年生までのタイミングに、愛着がまちに沸いていて、ここで子育てしていくみたいなことがあれば、人とのつながりができていて、別に離れてもいいなとかじゃなくて、ここに居たいと思えるかどうか。 |
| 関谷委員 | 子どもが小学校に上がるタイミングって大きいですかね。 |
| 佐曾利委員 | そうですね。 |
| 酒向委員 | 転校をあんまりさせたくないですよ。 |
| 佐曾利委員 | 幼稚園、保育園のタイミングは、まだ子どもと子ども同士の愛着かなと思ったりはします。 |
| 関谷委員 | その他の視点で何かありませんか。 |
| 増田委員 | 赤線のところいいですか。6ページの年齢構成比のところですね。実現のために新市街地の形成とか突然現れているので、何か違和感がある。これ不動産の流通活性化とかそういう言い方だったら分かりますが、前提が1個もないのに急に新市街地の形成、空き家問題とか、そういうのも含めて人口が減ってくってことは、どんどん空き家も増えているということでもあるので、それも加味すると不動産の流通活性化とか、そういう言い方の方が分かりやすいかなと思う。家がどんどん増えてくだけなので古い家はどうするの、となる。 |
| 関谷委員 | 年齢構成比を考えて、その部分は増えていきますよね。 |
| 増田委員 | 古いまちもいろいろあるので、そういうところの流通活性化とか、そういう言い方もいいかなと思う。 |
| 宮地委員 | 逆にね。これを作られた担当セクションの人がどういうイメージでこれを考えているか、そこをちょっとお聞きしたいです。新しくエリアを指定して、そこを市街 |

| | |
|---------|---|
| | 地にしちゃうってことですか。 |
| 事務局（古田） | 新市街地の形成は、実は今、犬山市が特定のエリアを作っていこうというのを方針として示していて、具体的には41号の南側のところですが。ただ、確かに今増田委員がおっしゃったように新しいところばかり見て、今あるまちをどう生かしていくか、その住宅という側面に対してのアプローチがあってはじめて新市街地じゃないかという。新市街地の形成というのは、こだわりたいキーワードでは犬山市の方向性としてありますが、その前に抜け落ちている部分があるというご指摘は、そうかなと思いました。そこを活かさせていただきたい。宮地委員のご質問ですが、犬山市は実はこういう方向性を出しています。そこを表記させていただいています。 |
| 宮地委員 | 道の駅を作ろうと思っていた場所ですよ。41号の北側はまさしく市街化というか、開けつつありますよね。だから今度は南側もということですか。 |
| 事務局（古田） | はい。 |
| 宮地委員 | その時に、先ほど申し上げたように、大きな範囲を指定してここへ一挙に宅地に農地転用すると。農振を外してから市街化区域に指定してそこで呼び込む。これ結構必要だと思います。 |
| 事務局（古田） | 手法としてですね。 |
| 宮地委員 | はい。今のお話は具体的な話だと思いましたが、具体性が何となく見えてこないような。 |
| 増田委員 | それがもう想像ができない。 |
| 宮地委員 | 今お話を伺って分かりました。なかなか具体的な話で実現するかどうか別にしても、それは分かりました。 |
| 増田委員 | この後に「犬山市に愛着を持てる人を増やします」と書いてある以上、今ある団地も大切にしますよということは、前に書いてもらいたいと思います。なので、そういう不動産の流通活性化とか私たちの団地は捨てられて、新しい団地ができるんだと思われぬようにという感じ。 |
| 関谷委員 | 今いる人も大事にしつつ、新しく来る人も大事にするというところ。 時間過ぎてしまうので、最後に何か言い残していることをお伝えして頂けたらと思います。 どうぞ。 |
| 酒向委員 | はい。「デジタルの活用」はすごくいいですが、高齢者が使えるのかなと思う。デジタルだけ整えても、使う方が困るのではないのでしょうか。 |
| 佐曾利委員 | 出生率が本当に下がってきている。ここで、第1子を育てていて、第2子を検討しているご事情があったとしても積極的にどんどん子育てをしていきたいなって、もし大変と思う部分があるならば、どういうところかみたいなのが気になっていて、働くってなったときに、仕事が多いエリアに行くとなると距離がある。じゃあ犬山で働けるかっていうところの部分みたいなのが、もう少し犬山でそのまま仕事もできるし子育てもできる。そのためにはデジタルの活用なのか。商業施設が増えると良いのかとか、その暮らしが子どもからどうリンクしていくのかみたいなのも、見えてくるような。愛着ももちろん、移住定住もですけど細かいところに出てくるだろうと思いました。 |
| 関谷委員 | ありがとうございます。 すべて計画になるときに、今点々になっているものが、生活の視点で繋がってここに現れるようなものになってくるといい、というような感じで皆様の意見をまとめますので、また何か説明、補足がありましたらよろしくお願いします。 |

| | |
|--|--------------|
| | ありがとうございました。 |
|--|--------------|

(7) Bグループ

| | |
|---------|--|
| 水内副会長 | <p>それでは、Bグループの方で前回同様、自由闊達なご意見いただけたらと思います。前回申し訳なかったですけど、鈴木先生にきちんと伝わるように、マイクを使っていただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>いろんな内容が議論できそうなんですけども、おそらく一番大事なのは、事務局より説明がありましたこの「いいね！いぬやま総合戦略」の変更箇所。最後のページで、具体的な施策の方向性の6項目。それに基づいて、具体的なところが紐づいてくるわけですので、その方向性をまず確認いただきたいなというところもひとつあります。それからアンケート、これから集計を行っていくということで、例えばこの項目のところをクロス集計してみたらどうかなど、様々なアイデアをご意見いただければと思います。その他もちろんご意見をいただきたいなと思います。特に順番ありませんが必ず1人1度はご発言を頂きたいなと思います。</p> |
| 鈴木(伸)委員 | すみません。 |
| 水内副会長 | お願いします。 |
| 鈴木(伸)委員 | すみません。資料を見させていただいて、わからないなと思うところがありまして。9ページの「第2期総合戦略の達成状況」。緑の表の中の1番右の達成状況で、「不明」「達成」「未達成」というのは、これがどういうことなのか分からないんですけれども。 |
| 事務局(若山) | こちらに関してまして、例えば一番上ですと、合計特殊出生率1.63と書いてあります。こちらを達成したいということだったんですけども、令和4年度の現状値1.31で、これが令和4年度の数字なので6年は、この目標を達成できたかどうか分からないということで「不明」とさせていただいてます。同じようにこの目標値を上回ってる場合は達成というような表記で、6年度の目標値を達成してないものは「未達成」というような表記で書かせていただいています。 |
| 鈴木(伸)委員 | わかりました。それで合計特殊出生率は、令和6年度のデータが出ないので「不明」というふうにした。そうすると、社会人移動人口というのは令和5年211人転出超過。目標値は転入超過で「達成」になっているのですが。 |
| 事務局(井出) | 先ほどの合計特殊出生率、令和6年の目標値はこれに対して、現時点ではこの数値が出てないので「不明」になってます。もし策定までに出てくれば、この数字が入ってくるということです。すみません、社会移動人口も「達成」って書いてますけども、まだ令和6年の結果出てないので、これを踏まえてこの後出てくるという形になります。今の時点の話で暫定とご理解ください。 |
| 水内副会長 | ありがとうございます。他の方でも結構ですが、順番にいいですか。 |
| 松浦委員 | 質問なんですけれども、審議会での意見とその対応の資料、35番。新たな総合戦略の策定にあたり、中学生や高校生の意見を取り入れてほしいと質問させていただいたのですが、その回答が「今回新たな総合戦略を策定するにあたり、中学生を対象としたアンケートの実施予定はありません。しかし、第6次犬山市総合計画の策定の際には、中学生アンケートを実施しており、そのアンケート結果を踏まえて総合計画を策定しています。」ここのアンケート結果を踏まえてというところの、既にアンケートは実施しているということですよ。どのように反映しているのかがちょっと見えにくいので、教えていただけたらと思います。 |
| 事務局(井出) | 今回のこちらの、総合戦略(仮)と書いた案の方には、まだ現時点でアンケート |

| | |
|---------|---|
| | <p>結果というのは反映しておりません。今後、こちら見ていただくと、こちらの13ページ以降になると、個別の事業であるとか、方針が出て参ります。このあたりは、市の方針もそうなんですが市民ニーズであるとか社会的なニーズというのを、我々も取り込んでいかなければいけないと思ってますので、今回のアンケート結果、或いはここに書いてありますように6次総のときにとった中学生アンケートの結果、そんなに時間経ってませんのでそれほど大きく変わるものでもないかなと思ってますが、そういった意見も踏まえて検討して参りたいなというふうに考えてます。</p> |
| 水内副会長 | <p>何か他にご意見や考えられていることがありましたらいかがですか。 では、中山委員お願いします。</p> |
| 中山委員 | <p>このアンケートなんですけれども、自由に記載できるような、書けるような場所があればいいかなって思いました。</p> |
| 事務局（井出） | <p>おっしゃる通りで自由意見記載欄というのは今回ないという形になっております。今回はデータを処理する上でというところはあったんですが、おっしゃる通りで、自由意見の中に、いわゆる定性的というか、そういった部分も含まれてくると思うんで今回は申し訳ないと思いますが、今後我々もこうやっていく上では、そういったところも重視しながらやっていきたいなと思います。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。他にいかがですか。ご質問だけではなくても、考えられていること、ご意見、お示しいただけたらなと思います。紀藤委員、いかがでしょうか。</p> |
| 紀藤副会長 | <p>個人的には、言葉が難しく書いてあって、実際にアンケートに答えていただいた高齢者とか若い方もそうですけど、考えていらっしゃることが、反映されてるのかなあとと思うと、違うような気はしてしまいます。「犬山市に愛着が持てる人を増やします」という、どういうことをして愛着を持てるということになるのかなと思います。例えば犬山城がありますけれども、犬山城は、例えば東京の方とか、そういう方から見ると犬山市知ってるよ、犬山城があるところでしょ。それは江南市とか扶桑大口小牧、この辺と全然違う。犬山城で犬山市が有名になっている。じゃあ市民にとっては、犬山城があることによって、何かすごい恩恵があるかというふうに考えると、個人的には疑問符がつくといいですか、全く個人的に犬山市に住みたいというふうになれば、例えば小牧と比べますと、アリーナも小さい。それから小牧の図書館、行かれたことがあるかもしれませんが、もう全然違うんだよね。図書館の中にスターバックスがあって。それから可児の創造センター、あそこに行くと、犬山市の市民会館とか、全く違う。だから何かそういうところで、住みたくなるまちと言われても、何かピンとこないといいますか。個人的にもし、犬山市に住めばこういういいことがあるよということであれば、私ならですね、モンキーセンター、モンキーパーク、明治村、リトルワールド、ああいうところに犬山市民ならただとは言いませんけれども、かなりお安い価格でいけますよと、子どもを連れて遊びに行ける場所を犬山市の財政的に作るってわけにいきませんので、犬山市民が利用できるよ、小牧とか扶桑とか大口の方からうらやましがられるような、そういうことをやれば犬山市に住もう、犬山市に愛着を持てる。ですから、個人的には何かそういう、もう少し起爆剤というようなことがあると、そういうのが紙で示せるというなとは思ってるんですけども。</p> <p>それから、子育てしやすいといいますかね、私は前回も言ったんですけど、民生児童委員を長くやっておりましたので、学童保育へ何回も行っております。建物が古い、それから学童がいる部屋のカーペット、これはもう何年前のもの使っている</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>かわかりませんが、ものすごく古い。トイレも、すごい古い和式のような。子どもはですね、学校は1学年30人学級だといいますけど、学童はものすごい数なんです。密着、本当に混雑と言っているくらい。ですから、そういうことが解決されれば「みんな住みたくなるまち」じゃないかなというふうに考えてまして。字で綺麗に書くと、そういうことが出てこないというふうに思ってます。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。貴重なご意見だと思います。目玉がない、起爆剤がない。むしろ観光、交流人口ということをやっていたので、観光の方々への目玉がたくさんあるんだけど、市民の住む人にとって目玉はない。それをうまく結びつけて、資源を活かす、もしくは新しいものを作るような政策も必要なんじゃないかという理解をしました。ありがとうございます。</p> |
| 鈴木(温)委員 | <p>水内先生、よろしいですか。</p> |
| 水内副会長 | <p>はい、お願いします。</p> |
| 鈴木(温)委員 | <p>今のご意見と結構関係するんですけども、アンケートの結果を拝見すると、道路のインフラの管理ですとか、公共交通の整備ですとか、或いは市内の買物が便利かどうか、こういったところ、軒並み評価が低いということなんですけれども。一方、総合戦略の推進にあたって目指す姿という6つの施策が出ていますけれども、民間の力を活用とか、デジタルの活用とか、或いは財源の工夫とか人材育成、こちらの方を見ますとソフト施策が非常に多いわけですね。ハード整備の部分に不満を持たれている、まだまだ不十分だというふうに思われているようなアンケート結果に対して、目指すところがソフト施策だけなので、そういうところがミスマッチになっているんじゃないかなと思ひまして、もう少しハード整備も含めたものを考えていったほうがいいのかというふうに思ひます。以上です。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。やはりそこにミスマッチがあるんじゃないか、これまで割とものを作りすぎてきたような反省から、事業であるとかソフトってことに日本全体だと思うんですけど、そのしわ寄せが来ちゃってるよねっていうご指摘だと思いますし、犬山がもう少し先入観なく、ハードの部分にもきちんと施策として入るっていうことは必要かもしれないです。</p> |
| 事務局(井出) | <p>ご指摘ありがとうございます。おっしゃる通りだなと思ひまして、先ほどちょっとお話しさせていただいたんですが、本日のこちらの資料についてはまだアンケートの部分は反映しきれておりません。今、鈴木温先生のご意見も踏まえて、こちらの組み立て直していききたいなと思ひます。実際の施策としては、先ほど紀藤副会長がおっしゃったことも踏まえて、市としても全く新しい建物をポンと作るというのはなかなか考えにくいところではあります。例えば橋爪五郎丸子ども未来を統合して新しい橋五子ども未来園を作る、或いは民間活力を使って、羽黒に新しい保育園をつくる。あと学校等も順次更新をしていって、勉強しやすい、過ごしやすい環境も作っていっているところです。児童クラブについても、児童センターは確かに古いです。そういったところも、児童クラブは今、学校の中に新たに教室を整備して新しい形で始めておりますので、そういった今の市の方針も踏まえて、こちらのところを新しく変えていけたらいいなというふうに聞いてて思ひました。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。玉置委員いかがでしょうか。</p> |
| 玉置委員 | <p>私が思ったのが、やはりいいことを変えてるっていうのが、伝わらない気がして。調べれば出てくると思うんですけど。せっかくだったらPRを、観光で城下町の真ん中にすごい人が来てると思うんですよ。車も多くて、駐車場はほとんど作られているので、車でみえる方も多と思うんですけど、電車で歩かれて見える</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>ってことは、すごく遠いところから来てる人もいるかもしれないですけど、近くから来てる可能性があるんじゃないかなと思って。この城下町のメインストリートのところに観光に来ただけで、先ほど副会長がおっしゃったように、犬山城があるからと言って愛着が醸成されるかって言われると、観光の方は多分それを目的に来てみえて、きっかけの1つとしては犬山をさらに知ってもらってというのを、そこに出展、PRする場所というか、人の目がつくところでPRするっていうのは、お金もかかるでしょうし、難しいことだとは思いますが、せっかくきてる人がいるのであれば、その歩くところの先で、犬山市を知っていただけるギャラリーじゃないですけど、そういうのを通ってみて犬山市ってこういうこともやってんだねみたいな、さらに知っていただくことはできるんじゃないのかなあと思ったんですけどいかがでしょうか。</p> |
| 事務局（井出） | <p>あんまり僕ばかりしゃべってもだめかと思うんですが、でも、非常にうれしいご指摘です。僕は総合計画策定のときも関わって、アンケートとかヒアリングとかもずっとやっているんですけど、犬山は観光地としては、本当に知名度が高いです。東海地区で、犬山って言ったらみんなわかってくれるようなテレビとかにも出て、でも住むまちとしてのイメージはないです。これを我々は「来るまちいぬやま」から「住むまちいぬやま」に転換したいなと思っているところで、実際にご提案のように城下町に常設のものを持っていうのは難しいかもしれないんですが、犬山にせっかく来てくれる人、或いは犬山に行きたいと思ってくれる人がたくさんいる。多分、城下町に来るのは若い東海地区の子たちで、お城はそういう人たちじゃなくて少し遠いところからくる、高齢なお城好きな人達で、色分けはあるんですが、とにかく「来るまちいぬやま」として知ってもらってるところを「住むまちいぬやま」に転換して理解してもらうための、取組みとしてそういった人たちに働きかけるっていうことはやっていきたいなと思います。ありがとうございます。</p> |
| 水内副会長 | <p>そうですね、まさに強みなのでイメージが良いわけです。そこから犬山市って住めるんだ、住むチャンスがあるんだっていうようなところの動線をいかに引き当てるかが、これからどんどんやっていくってことだと思うんですけど、そこにアイデアがあると本当にいいですよ。住むまちですよってPRだけでは足りないような気がしますし、これはどういうアイデアだったらいいのか、という。</p> |
| 紀藤副会長 | <p>江南、扶桑も大口もお城がないんです。お城がないから、頑張るんです。犬山は犬山城があるので、その分頑張らなくても有名なんです。犬山にお城があることを忘れて、どうしたらいいのかということを考える。犬山市でリトルワールドも明治村も、モンキーセンターもつくれません。でも、利用はできるんです。利用料さえ払えば、名鉄と交渉して、犬山市民はそこを使えるんだよということがあれば、1つでもすぐ起爆剤にはなるんじゃないかなと僕は思ってるんです。明治村も、モンキーセンターも、何回か行っております。非常に設備がもう古いんです。結局儲かっていないんですね。だから名鉄さんもアップアップじゃないかなと思うんですけども、広報の淵に三角の切り取りがあって、それを切り取ると安く行けたということがあります。だから、そんなようなことは、前にはできたんですね。ですからもう少しそういうことをお考えいただいて、市議会での予算を認めていただいて、市民であることの喜びというか、江南にも大口も扶桑にも、リトルワールドも明治村も何もないんです。でも彼らは頑張ってるんです。扶桑も大口も人口減ってないんです、増えてるんです。犬山はこんなに観光地で全国的にも有名で、明治村とかいっぱい施設があるのに、人口は減ってるんです。難しい議論は僕はあんまり好きじゃ</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>ないですから、そういうことを具体的なことをやるということが、人口減を食い止めるんじゃないかなというふうに考えております。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。中山委員お願いします。</p> |
| 中山委員 | <p>女性の活躍とか人口増加に関わってくることなんですけども、私自身働きながら子育てをしていて、毎回熱だったりとかで仕事を休んだりしなくちゃいけないことがほとんどで、普通にフルで会社員で働いていると、心苦しくなってくるというか、結局独立して、1人でやっての方が楽だなというか、時間に自由もきくし夜中に仕事もできるので、会社員とかで働くのは無理だな、と最近ちょっと思っていて。犬山市以外の人でも話を聞いていると、子どもが熱出たりするせいで、しっかり残業をしたいのにできなかったりとか、周りの人に気を使ってばかりで仕事自体もう重要な仕事をもらえないとかで、困ってる方がいて、犬山も変わりつつあるんですけども、病児保育が2人で1室ずつで預けられるようになってきて希望が見えてきたという感じもあるんですけど、実際使った子は、前日の午前中とか病院に行って、証明書みたいなものを病院で書いてもらって、さらに5枚ぐらい書類を書いて、それを持ってって許可が出たら使えるみたいな感じだったりするので、仕事とか家庭のことをやってるだけでもものすごく時間がかかってしまって、使いたくても使えないというのが現状でして、今後そういう熱があるときとかに、女性が行かなきゃいけないという現状があって、働きづらいなあと思う。犬山市以外でもそうなんですけど、そういうものが改善されたら、ここで働きたいとか、ここに住みたいとかいうこともかなり増えてくると思うので、ぜひしていただけたらと思います。</p> |
| 事務局（井出） | <p>よくわかります。手続きが煩雑でとか面倒くさくて、せっかく仕組みがあっても使いにくいんだったら意味ないだろうっていうところは、よくわかりますので、こちらからも原課の方に働きかけていきますし、鈴木委員が聞いたので議会として対応があるのかなというふうな気もします。でも本当におっしゃる通りで、結局、人口動態とか移住定住だけじゃなくて、女性だけじゃなくて、男性もそうなんですけど、子育てしやすい環境にしないと子どもは増えないし、人口も増えないので、それだけのためじゃないですけど、皆様の幸せのためのことだと思うんですけども、根本のところではみんなが子育てしやすい、働きやすい、生活しやすいというところは我々やっていかなきゃいけないなというふうに思います。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。前回鈴木温委員が、デジタル化は目的ではなくツールだとおっしゃっていましたが、おそらくこういうことでデジタル化が強いと思うんですよね。デジタル化をまずもってやる場所は、おそらくこういう子育ての支援であるとか女性活躍ってことなんだろうなというふうには思いました。そういう意味では、すべてをデジタル化するのは難しいですけど重点的にやるべきポイントはどこなのか考えていくのは必要かなという気がします。</p> <p>玉置委員お願いします。</p> |
| 玉置委員 | <p>同僚が同級生なんですけど、産休中なんです。そこで相談されたのが、体調が悪くて調べたら障害があったと。療育ですかね。未満児の療育が犬山にはないということで、軽く調べたらその病気の子だと、ブラダー・ウィリ症候群っていうんですけど、市に相談したら、無理だったと。まだ1歳になったばかりだったので、他の市町村だったらある。けどその子は家が犬山だったから、もう家を動かすことはできないから、仕事をやめるしか道はないってなってしまったんですね。なので、他の市町村はあって犬山にはない、病院からも手を離されて、自分で病院調べて、事例がないからここでは無理だよっていうふうで、いろんなところから離されちゃ</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>ってというのがあったので、障害って書いてあるけど、ごめんなさい、ちゃんとそれを確認しないとですけど、そこに1人に対しての意見なんで誰かしら漏れちゃう人はいますし、どうしても助けられない人はいると思うんですけど。他の市町村はあるけど犬山はないっていうことがあるんだってことに、最近気づいたっていうことが1つです。</p> <p>犬山市の会議室とかいろんなもの借りようと思うと、オンラインで空き状況が分かるものと、オンラインじゃ空き状況が分からないところと、押さえられるのもオンラインで良いと私は思うんですけど。これ犬山市側のシステムの問題って思いながら、オンラインについていけない人がたくさんいるのか。すごく借りるのに不便なんですね、押さえられはするんじゃないって思うんですけど。そういったところはどうかというところオンライン化、デジタルソリューションっていうかね、何かがあるといいなと思います。</p> |
| 事務局（井出） | <p>障害児のそう言った、個別のことというのは本当に何とかいろいろ対応できることはしないといけなと思いますけども、そういった事例があったことは私どももちょっと受けとめて、また担当の方にどうなのっていう話はさせていただきたい。さっきおっしゃったように、何でもかんでもできるわけではないと思うんですが、他の自治体でできるということは、うちでできない理由って何だろうなっていうことで、改善できるものにしていかないといけないなと思います。</p> <p>オンラインの受付というのは、非常に我々としては進めていきたいところで、鈴木委員も願っていらっしゃるんですけども、一般質問でもどんどん議会で聞かれるところではあるんです。ただ、わかってらっしゃるように、利用者がオンラインだとできないっていう方が使う施設もあるんです。地域の施設であったりとか、我々行政の民間と違うところはそういう人たちも拾っていかなければいけないっていうところで、そういうところで少しでも今、底上げしていくために、スマホの使い方講座であるとか、いろんな形で支援をして、底上げをしていっているところです。いずれスマホ世代の人たちが、中心なってくればそんなところも解決するのかなというちょっと楽観的なところがあるんですけど、今すぐっていうところは、ちょっとずつしかできないかなと、そこは正直なところです。</p> |
| 水内副会長 | <p>ちょうど時間が20分になったんですけども、細かく短くこれは伝えておきたいっていう方がいらっしゃればぜひ。</p> |
| 松浦委員 | <p>今、こうしたらいいんじゃないかって話がたくさん出たんですけども、私個人的には犬山がすごく住みやすく、子育てしやすいと思っておりました。教育に関しても、多分抜群だと思っております。多分市町村で比べられたこと、皆様ないかと思うんですけども、まず学校を選べるっていうところは、おそらくほとんどない。区域外通学ができる市町村っていうのは他から聞いたことがないので、そういう配慮していただけること。それから先ほど学童の話が出たんですけども、他の市町村、1万2万出して学童に通わせているんですね。しかも3年生以上が入れないっていうところが現状なんですけど、犬山市内、皆様 希望すれば入れます。しかも3000幾らという金額、もうちょっと上げてもいいんじゃないかなって思うぐらい、とてもサービスのいいんですけども、そのあたりのPR全くされてないので、おそらくそのことを知らずに、皆様そうだったのっていう犬山市民の方すごく多いですし、もちろん市外の方もすごく多いので、せっかく子育て支援、教育っていうふう書いてあるのであれば、そこをもう少しPRしていくといいなと思っております。先ほど療育の話も出てたと思うんですけど、犬山市内の療育の小さな</p> |

| | |
|-------|---|
| | <p>お子さんが利用できる場所もあって、おそらく専門性の部分で、ちょっと行き違いだったかなと思うんですけども、おそらくどの分野でも、受け入れられるようなところがありますので、他の民間でやっているところと連携がもうちょっとできるといいなと思います。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。 他の皆様いかがでしょうか。</p> |
| 中山委員 | <p>犬山市はいい制度があるのに、結構頑張って調べないと、そこにたどり着けないのが現状でして、なんかもっとこう子育てしてる人たちに向けてとかでも、年代別に幼稚園小学校中学校とかこういうのがあるよみたいな一覧とか冊子とかがあればありがたいなと思ったので、もしできたらつくっていただけたらなと思います。</p> |
| 松浦委員 | <p>さくらんぼがありますね。</p> |
| 中山委員 | <p>さくらんぼにイベントや制度、全体的にも載っていますか。載っているんですね、ありがとうございます。</p> |
| 玉置委員 | <p>今お話した中で、夏休みとか冬休みにお弁当多分作って持っていかなきゃいけない、ある学校だと思うとお弁当を頼めるんですかね。ですよ。羽黒は頼めるはずなんですけど、学校によって頼めない学校があるみたいで。学校ではなく、保護者の方がやってみえるんですね。あの学校いいよねって今なっていて。私は子どもを学童は入れてないので分からないんですけど。羽黒これいいよねみたいな、犬山市内でもやってくださってる方たちがいるからできてるっていうのはもちろんあるんですけど。毎日の給食がなくなった瞬間多分恐ろしいと思うので、そこがあるといいなと思いました。</p> |
| 水内副会長 | <p>ありがとうございます。場が温まってきたところですがもうそろそろ帰ってこられると思うのでここで終了とします。 ありがとうございました。</p> |

(8) 全体

| | |
|------|--|
| 鈴木会長 | <p>どうもご苦労さまでした。それはですね、Aグループの方からお話いただければと思います。</p> |
| 関谷委員 | <p>よろしくお願いします。Aグループは、やはり時間が足りない。もっと皆様に意見を交わしたいなというような形で終わってしまったんですけども、まず1つ、次回までにアンケートについて、いくつか年齢区分ごとの割合を出して欲しいだとか、クロス集計っていうような形で、特に問5市民活動とかを行ってるかと、その他の生活の利便性だとか、安心を感じている住環境が整備されてるかっていうようなクロスを出していただけるといいかなあと、いうようなところがありました。また、回収数が少ないという割合的にも少ないということがあって、回答があるということは、積極的に思いがあって比較的肯定的な人達であろうと。そうすると、このアンケートから見えてくる、否定的な意見というものをもっと大事にすべきではないか。この部分をどうやって具体的などころ反映していくかって難しいんですけども、この否定的な部分のとらえ方をもう少し整理できるような分析をしていただきたいところがアンケートについての要望になります。</p> <p>もう1つが総合戦略2025-2030の素案の部分についてなんですけれども、この部分については、具体的などころが話題に上がりまして、その具体的などころは議事録の確認をしていただくというふうをお願いしたいんですけども、総じて、特に最後の目指す姿に対して6つの視点があるんですけども、この6つの視点という</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>ものがピンとこない、具体的にイメージできるようなものにはなっていないんじゃないかと。中で書かれてある具体的なビジョンの変更された部分だとかいろいろな細かなところというものが、それぞれ点で見るとなるほど、とか、そういうことか、とか、こういう方向性っていうことも理解しやすいけれども、生活という視点でまとめていこうとすると、それらが繋がらない。具体的な犬山をこうしていきたいっていうような期待感に繋がるような、目標と具体的な方法、方向性っていうふうにはなっていないのではないかと。民間の力を「活用」というふうに書いてある活用という言葉ではなくて、市民サイドで見えていくと「発揮」とかそういうような言葉の使い方1つとっても選択する言葉を、丁寧にやっていくというような、多角的に見ていきつつ全体をつなげていくっていうこともまとめていく作業の中で必要になってくるんじゃないかという意見がありました。</p> <p>以上です。</p> |
| 鈴木会長 | <p>どうもありがとうございました。ではBグループ水内先生お願いします。</p> |
| 水内副会長 | <p>Bグループも活発に意見交換を行いまして、場が温まってきたかなっていうところだったんですけども、やはり全体の方向性として、交流人口、それから定住人口のそういうシフトしていくっていう中で幾つか貴重な意見があったかと思えます。例えば、犬山城はじめ、観光資源の認知度が非常に高い、全国的に高い。しかし、それが市民に直接的に還元されていないので、住むっていうことの動機づけにはなっていないのではないかと。例えば他の市町であれば図書館とか文化施設のような目玉、起爆剤のようなものがあって、それで住むっていうところに動機づけられるんじゃないかと。例えば新たにその文化施設を作るっていうのは難しいかもしれませんが、市民が今あるような例えば、リトルワールドであるとか、犬山城、そういう施設にアクセスしやすいような、例えば無料でアクセスできるとか、そういうふうな、既存の資源をうまく定住の方向に結びつける政策が必要じゃないかというようなご意見であるとか。非常に愛着が高いんだけど、アンケートの結果を見ると、インフラとか、買い物に対しての不満が多い。しかし、現在示されてる総合戦略では、どちらかというソフトの部分に重点を置かれているのではないかと、そこにギャップがあるのではないかとということで、不満はハードにあるので、率直にハードに対して、力を入れてもよいのではないかとというようなご意見もありました。</p> <p>それから観光客が非常に多い中で、それを定住者にしていくための施策が必要なんですけども、例えば城下町でPRを行うとか、先ほどの観光資源にアクセスすることもそうですけども、そのような観光客をいかにして定住者にするのかというような検討が必要じゃないかと。</p> <p>それから病児保育の問題であるとか、具体的な子育て支援の様々なエピソードが出まして、やはりエピソードベース、個々の事例が非常に重要なので、そういうところを丁寧に拾っていく、ケアしていくっていう必要性を感じました。Bグループからは以上です。</p> |
| 鈴木会長 | <p>ありがとうございました。</p> <p>お2人から紹介いただいたのは、おそらくほんの一部のところだと思いますけども、その話に繋がる非常に詳細なところは、事務局の方で記録とっていただいていますので、またそれを確認しながら、かつ、関係課の方に紹介をして共有して、この計画策定に活かすような情報として説明していただくようにしたいと思います。</p> <p>それではですね本日については、少しオーバーしましたので、これで審議の方は終了させていただきます、今後に向けてですね、また、次回に向けてのアナウン</p> |

| | |
|---------|--|
| | スをしてもらいたいと思います。お願いします。 |
| 事務局（古田） | <p>会長、ありがとうございました。</p> <p>最後にですけれども、次回の会議の開催日程のご案内をさせていただければと思います。次回、第3回になりますけれども令和6年12月16日月曜日、午後7時から開催予定とさせていただきたいと思います。また皆様には改めて書面の開催通知を送付させていただきますけれども、12月16日の月曜日、午後7時からこちらの会場で予定をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上をもちまして本日の会議は閉会とさせていただきます。</p> <p>どうもありがとうございました。</p> |